

主 題：深遠なる神の憐れみ 3
聖書箇所：ヨナ書 3章1－10節

今日はこの箇所から二つのことを見て行きます。
「神のヨナに対する憐れみ」と「神のニネベに対する憐れみ」です。

1. 神のヨナに対する憐れみ 1-4節

神からヨナに対して二度目のチャンスが与えられました。これが神のみわざです。神はこのヨナに対してだけでなく、三度もイエスを拒んだペテロに対しても、また、パウロとマルコの関係においても、チャンスを与えられました。宣教旅行中にパウロと袂を分かったマルコですが、後にパウロに受け入れられます。II テモテ 4:11「彼は私の務めのために役に立つからです。」と。罪の悔い改めによって、神はその罪を赦し、また用いてくださるのです。しかし、私たちが覚えなければいけないことは、神を信じることなく死んだ人々には、救いのチャンスはないということです。

ヨナは「神に従ってゆく」と「神のみことばを語る」ことを選択しました。

ニネベについて創世記 10:8-12 に記事があります。「クシュはニムロデを生んだ。ニムロデは地上で最初の権力者となった。彼は主のおかげで、力ある獵師になったので、「主のおかげで、力ある獵師ニムロデのようだ。」と言われるようになった。彼の王国の初めは、バベル、エレクト、アカデであって、みな、シヌアルの地にあった。その地から彼は、アシュルに進出し、ニネベ、レホボテ・イル、ケラフ、およびニネベとケラフとの間のレセンを建てた。それは大きな町であった。」と。いくつかの町が集まった複合体の町でした。城壁の周りは約90キロ、一日30キロとして三日かかります。60万から100万人の人口だったといわれます。

神の命令は、2節「立って、あの大きな町ニネベに行き、わたしがあなたに告げることばを伝えよ。」です。今の私たちにも神からこれと同じことが言われています。神のことばを正しく語り、伝えること、これが私たち救われた者の責任です。また、みことばを語る者には重い責任があります。ヤコブ 3:1にはこのように言われています。「…ご承知のように、私たち教師は、格別きびしいさばきを受けるのです。」と。語ったみことばに伴った行動が問われるからです。

4節「もう四十日すると、ニネベは滅ぼされる」、これが神の警告であり、ヨナはこれをニネベの人たちに告げて周りました。私たちの群れにあっても、クリスチャンと言いながらそれにふさわしい行いが伴わなければ、本当に救われているのか疑問です。クリスチャンは絶えず罪との戦いを繰り返しながら、その都度神の憐れみを受けて、また新しく歩み出し、神に正しい選択をして行きます。神に対して責任があるのです。それは「わたしに従うこと」だと神はいわれます。神と自分との関係に目を留め、心を注ぎ出すのです。神に逆らうことは無駄な時間です。

ヨナの選択は大変な決心でした。自分たちの国を苦しめているアッシリヤの益のために働くのですから。

神はそれに答えて、人類史上すばらしいみわざを成されたのです。

2. 神のニネベに対する憐れみ 5-10節

ニネベの人たちに救いのチャンスが与えられました。人々は神のメッセージを聞きました。そして、自分の罪を悔い改めるという選択をします。ヨナは三日三晩魚の腹の中にいたのです。胃袋の中で胃液などを浴びたことによって、ヨナの容貌には変化が起こっていたはずですが、実際に、72時間魚の腹の中にいて助け出された人が、その全身は褐色の斑点に覆われ、産毛がまったくなくなっていた、という記録があります。ヨナも多分そのように異様な外観だったことでしょう。「一体何者か…」と人々は好奇心をもって、ヨナのところに集まってきました。ヨナは自分の身の上で起こったことを話し、人々は耳を傾けました。「滅ぼされる」は、あのソドムとゴモラの滅びと同じことばが使われています。「四十日すると…」はかなり切迫した警告です。人々はヨナの話聞き、神のわざを知ります。神の存在に気づき、神を恐れるのです。「神を信じ」とは、アーメン「真実です」の語源です。ニネベの人々は悔い改めが真実であることの証に、断食をし、荒布をまといます。これは同時に「へりくだり」を表現しています。そして、王までもが神の憐れみを求めるのです。あの強力なアッシリヤの王でさえ悔い改めます。家畜も…すべての人が罪を悔い改め、神の救いを受け入れるのです。この後、37年後にアッシリヤはイスラエルを滅ぼします。ルカ 11:29-32に「さて、群衆の数がふえて来ると、イエスは話し始

められた。「この時代は悪い時代です。しるしを求めているが、ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられません。というのは、ヨナがニネベの人々のために、しるしとなったように、人の子がこの時代のために、しるしとなるからです。南の女王が、さばきのときに、この時代の人々とともに立って、彼らを罪に定めます。なぜなら、彼女はソロモンの知恵を聞くために地の果てから来たからです。しかし、見なさい。ここにソロモンよりもまさった者がいるのです。ニネベの人々が、さばきのときに、この時代の人々とともに立って、この人々を罪に定めます。なぜなら、ニネベの人々はヨナの説教で悔い改めたからです。しかし、見なさい。ここにヨナよりもまさった者がいるのです。」と、ニネベの人たちの悔い改めはイエスがこのように証言しておられます。ヨナ4：11には12万以上の人間と、とありますが、実際には子どもも加えて60万人以上の人たちです。

列王記第II19章には、アッシリアの王セナケリブがイスラエルの王ヒゼキヤに使者ラブ・シャケを送ったとき、このように言わせたことが書かれています。「ヒゼキヤに伝えよ。大王、アッシリヤの王がこう言っておられる。いったい、あまえは何に依り頼んでいるのか。…おまえはだれに頼んで私に反逆するのか。…おまえは戦車と騎兵のことでエジプトに依り頼んでいるが、私の主君の最も小さい家来のひとりの総督をさえ撃退することはできないのだ。…だれが、自分の国をアッシリヤの王の手から救い出したらどうか。」と、このようなプライドの高い国民、その王が神の前にへりくだったのです。これはまさに神のわざです。神が働かれるとき奇蹟が起こるのです。

9,10節は神のみわざです。神がそのさばきを「思い直して」とあります。これは創世記6：6にも「それで主は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。」と。神は考えを変えられることがあるのでしょうか？ いいえ、神は不変です。エレミヤ18：7,8には「わたしが、一つの国、一つの王国について、引き抜き、引き倒し、滅ぼすと語ったその時、もし、わたしがわざわいを予告したその民が、悔い改めるなら、わたしは、下そうと思っていたわざわいを思い直す。」とあります。これが神のわざです。変わるのは人間のほうです。そして、10節「努力している」とは、信じたことが神に認められたのだということです。人々の心の変化です。救いはあくまでも神から与えられるものです。

⇒このレッスンによってヨナが学ぶべきことは、神はどれほど憐れみ深いおかたかということです。神が手を差し伸べておられる人たちを、私たちが受け入れるのです。

私たちの選択にかかっていることを覚えましょう。